キャラクター名
タルキス・サンクスギビング

プレイヤー名

メインクラス	メイジ	**Lv.1:**		**レベル**	3
サポートクラス	セージ	**Lv.1:**	セージ	**性別**	オス
称号クラス				**年齢**	？？
種族	ベスティア：パボゥ			**境遇**	記憶喪失
出自（効果）	アカシックレコード			**目標**	ノブレス・オブリージュ

	筋力	**器用**	**敏捷**	**知力**	**感知**	**精神**	**幸運**
基本値	8	8	9	14	11	12	9
ボーナス	2	2	3	4	3	4	3
クラス修正	0	0	0	2	2	1	1
他修正							
能力値	2	2	3	6	5	5	4

HP	35
MP	53
フェイト	5

装備品		**射程**	**命中**	**攻撃**	**回避**	**物防**	**魔防**	**行動**	**移動**
右手	素手	至近	0	0	0	0	0	0	0
左手									
頭部	メイジハット					2			
胴部									
補助									
装身具	知識の書								
能力値			2	0	3	0	5	8	7
スキル	ベスティア：パボゥ		1	5					
その他									
総計(右)			3	5	3	2	5	8	7
総計(左)									
総計(両)									m
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	5			5	＋ 2 d
トラップ解除	2			2	＋ 2 d
危険感知	5			5	＋ 2 d
エネミー識別	6	2	1	9	＋ 3 d
アイテム鑑定	6	2	1	9	＋ 2 d
魔術判定	6	3	1	10	＋ 2 d
呪歌判定					＋ d
錬金術判定	2			2	＋ d

所持品	
バックパック	
ベルトポーチ	
冒険者セット	
MPポーション	
HPポ	

現在重量： 3		
最大重量： 8	所持金： -200	預金・借金：

スキル名	**SL**	**コスト**	**タイミング**	**射程**	**対象**	**判定**	**制限**	**メモ**
ベスティア パボゥ	★	ー	メイキング	ー	自身	ー	ー	
効果： 素手の攻撃力を［攻31								
マジシャンズマイト	1	-	パッシヴ	-	自身	自動成功	5	
効果： 魔法攻撃のダメージに+[SLd]する。								
ファイアボルト	1	6	メジャー	20m	単体	魔術	1	
効果： 魔法攻撃２D+10（火）								
マジックブラスト	1	3	ムーブ	ー	自身	自動	3	
効果： メジャーで対象単体の魔術を対象：範囲（SL×２）に変更する								
エンサイクロペディア	1	ー	Setup	ー	自身	自動	1	
効果： エネミー識別をセットアップで行う								
コンコーダンス	1	ー	パッシブ	ー	自身	ー	1	
効果： 対象：場面（選択）、射程：視界のすべての対象にエネミー識別を行える。								
アドバイス	1	ー	判定直前	20	単体	自動	ｼﾅﾘｵSL+1回	
効果： 対象の判定の直前に使用、＋１D。自分には使えない。								
トリビアリスト	1	6	判定直前	ー	自身	自動	シーン1回	
効果： 判定を【知力】で行う。								
ハイウィズダム	1	ー	パッシブ	ー	自身	ー	3	
効果： 【知力】判定の達成値に+SL×２								
ファイアロード	1	ー	パッシブ	ー	自信	ー	ー	
効果： 火属性魔法ダメージ+SL＊４								
モンスターロア	1	ー	パッシブ	ー	自身	ー	1	
効果： エネミー識別＋１D								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

所持金　165G+600G-30G-400G-100G
残り経験点　1+14

～プロローグ～
それはありふれた感謝祭の一幕。
家庭に喜びをもたらすべく大量に育てられた七面鳥のうちの一匹。
丸々と肥えた体は家族の食卓に喜んで迎えられた。
火にくべられるその瞬間まで彼はただの家畜だった。

だがそのとき！不思議なことが起こった！！

上等な石窯オーブンの炎に包まれたとき、その身は炎と一体となり、彼の意識は宇宙と繋がった！
過去、現在、未来、並行する全ての宇宙の歴史が彼の羽毛の一枚一枚をなぞっていく。

そして目覚めたとき、彼はエリンディルの大地にいた。
残念ながら『世界記憶の概念』（アカシックレコード）は彼の鳥頭にはあまりにもあまりあるシロモノだった。
しかし一時的にでも世界の理に触れ悟りを得た彼は思った。
「生きとし生けるものを導かなければ・・・」
そこにはもはや家畜としての蒙昧な意識はなく、また食料として捧げられたことへの恨みもなかった。
ノブレス・オブリージュ。彼はその身に宿る『知』で他者を助けるべく歩み始めた。

唯一の問題は、「鳥は三歩歩けば忘れる」ということわざにあるように、彼もその例外ではないということだ。